



## 今年の抱負

高井 睦美

今年は虹の会が産声をあげて丸10年です。理事さん達も10歳年を重ね、医者通いも始まっており、今後の会の運営について若い力の導入がずっと懸案事項になっておりましたが、昨年10月この新木野地区に住む若い青年が虹の家に入ってくれました。利用者の方たちも大喜びですが、理事会としても大変うれしく思っています。それで理事会のあり方を含め、虹の会の方向性や虹の会の運営について職員と共に地域の力を沢山お借りしながら『高齢者の在宅生活の支援を行う』という基本方針の遂行にまい進していきたいと思えます。

一方、2カ年かけて準備されてきた新木野高齢者見守りネットワークも昨年10月ようやく発足しました。虹の家も準備段階から参加し、今後本格的にこれが始動して、安全・安心な住みやすい新木野になるように微力ながら寄与していきたいと思えます。



## 新人職員紹介



- ・氏名 横山 耕太
- ・出身 千葉県我孫子市新木野
- ・住所 おなじく新木野
- ・生まれ 1977年
- ・自己紹介

生まれも育ちも我孫子市新木野、虹の家から徒歩5分足らずのところに住んでいます。

都内で高校の講師をしたり、高知で電車の運転士をしたり・・・と、これまで様々な仕事をしてきましたが、生まれ育った街への恩返しが多くなり、久しぶりに新木に帰ってきました。

3月から虹の家でボランティアをさせて頂いておりましたが、利用者さんやスタッフの方々と、とても楽しく過ごすことができました。そこで一念奮起。半年かけて介護職員基礎講習を修了し、10月より正式に職員として入れて頂くことになりました。今も相変わらず楽しく充実した毎日を過ごしております。今後ともどうぞよろしくお願い致します！

認知症の方々の代弁者としても著名な※クリスティーン・ブライデンさんのスピーチを直接聴くことができる機会ということで、とても興味深く拝聴しました。

内容としては、「健常者と同じように振る舞うストレス」だとか、本人をないがしろにして周りから勝手に判断される悔しさ」だとか「会話する時には“間”が必要なことを理解してほしい」だとか「非言語コミュニケーションの大切さ」だとか、様々な点で勉強になりました。

そのあと、日本国内の認知症本人の方が6名発言されました。発言者の方はどの方も明るく前向きで、それを聴く聴衆の側の雰囲気もあたたかみがあるのが印象的でした。

タイトルにある通り、認知症の方から学びとるだけではなく、学びとった内容にあわせて、今後どのように寄り添ってゆくのか、「私たち当事者ぬきに決めないで」というブライデンさんの言葉を忘れずに、今後の仕事に生かしてゆきたいと思えました。

※ クリスティーン・ブライデンさんについて  
オーストラリア政府の要職についていた1995年アルツハイマー型認知症と診断されました。2年後結婚、パートナーと二人三脚で認知症と向き合っ、公の場で、心のうちを語ってきました。発症してから17年を暮したメッセージを伝えています。



- ・氏名 森戸 ふみ
- ・出身 静岡県中伊豆町
- ・住所 我孫子市並木
- ・生まれ 1946年
- ・自己紹介

1946年の元旦、伊豆半島の中伊豆町、山ばかりの小さな山村に生まれました。仕事は美容師。以前から二か月に一度、虹の家で皆様の髪の毛のカットをさせて頂いていたのですが、縁あって、この10月より介護職員としてもお世話になっています。

谷川俊太郎の詩の中で、「魂の一番おいしいところ」というのがあります。神様が大地と水と太陽をくれた。大地と水と太陽がりんごの木をくれた・・・と、自然界がどんどんつながりを作り、人と人がつながっていく。虹の家に入ってまだ間もないのですが、そんな世界を感じています。どうぞよろしくお願い致します。